

令和5年度

事業報告

法人本部

障害者自立支援施設くるみ

- 自立訓練（生活訓練）
- 就労移行支援
- 就労継続支援 B 型
- 就労定着支援

地域生活支援センターぽぽろ

- 地域活動支援センター（I型）
- 精神障がい者地域生活支援事業
- 市町村相談支援事業
- 指定一般相談支援事業
- 指定特定相談支援事業
- 地域生活支援拠点事業

外部サービス利用型共同生活援助どんぐり

社会福祉法人 くるみ会 令和5年度事業報告

目 次

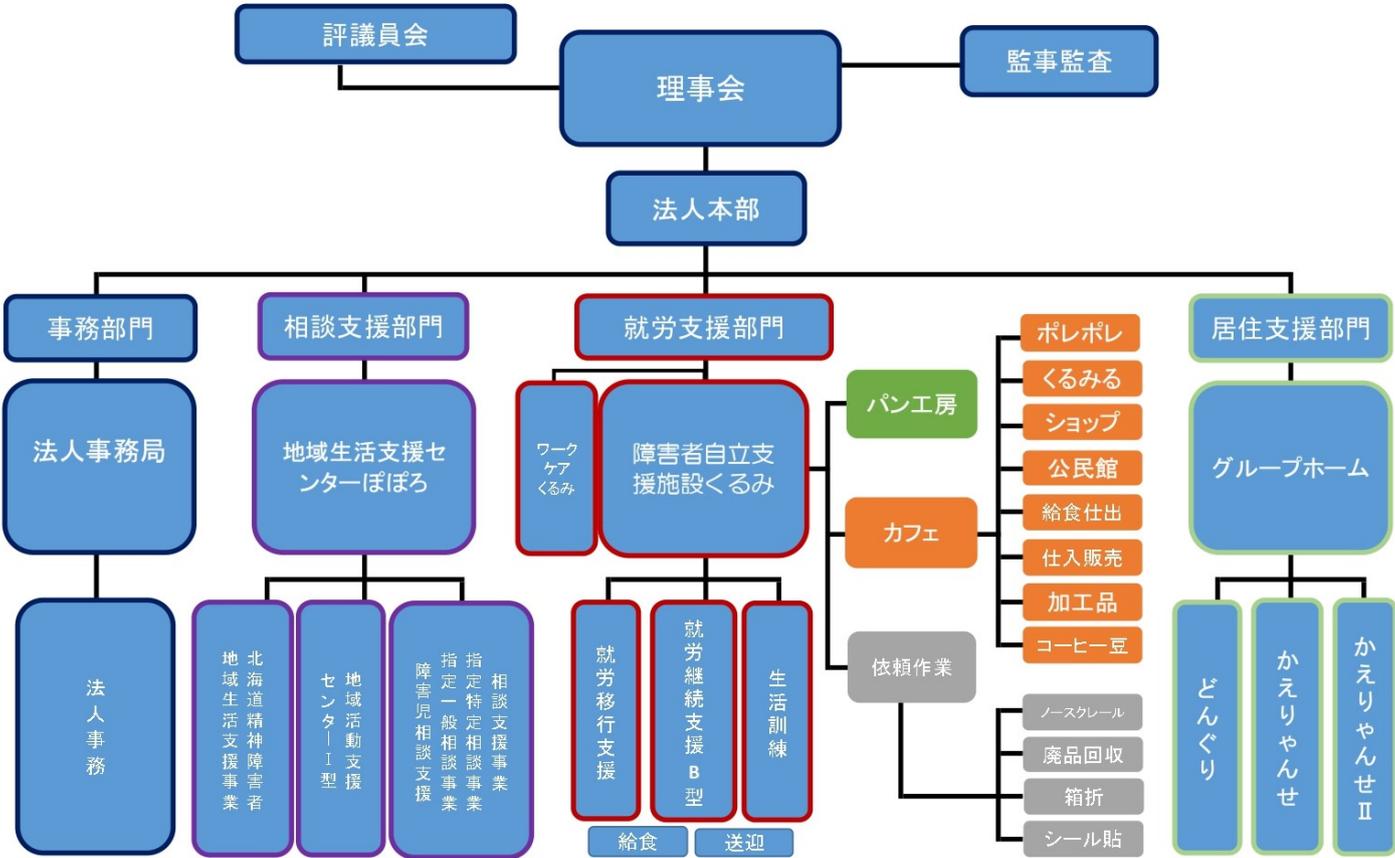
	頁
I. 社会福祉法人くるみ会	1
II. 法人本部	3
III. 障害者自立支援施設くるみ	5
○自立訓練（生活訓練）	6
○就労移行支援	7
○就労継続支援B型	8
○就労定着支援（ワークケアくるみ）	9
IV. 地域生活支援センターぽぽろ	10
○地域活動支援センター（I型）	10
○精神障がい者地域生活支援事業	11
○市町村相談支援事業	13
○指定一般相談支援事業	14
○指定特定相談支援事業	15
○地域生活支援拠点事業	15
○その他事業及び主な取組み	16
VI. 外部サービス利用型共同生活援助どんぐり	18

I. 社会福祉法人 くるみ会

事業内容

- ・障がい者自立支援施設くるみ 生活訓練・就労移行支援・就労継続支援 B 型、就労定着支援（ワークケアくるみ）
- ・地域生活支援センターぼぼろ 地域活動支援センターⅠ型、相談支援事業、精神障がい者地域生活支援事業（道委託）、指定特定相談支援、指定一般相談支援、地域生活支援拠点
- ・グループホームどんぐり 外部サービス利用型共同生活援助

社会福祉法人くるみ会組織体系



令和5年度をふりかえって

令和5年度も変化の多い一年でした。新型コロナウイルス感染症の5類への移行で行動制限が解除され、中止となっていたイベントなども少しずつ再開されました。しかし、物価高騰の波は止まらず、円安の傾向と重なって家庭や企業の経済活動を圧迫しています。そんななかで昨年秋にスタートしたインボイス制度、生成AIの急速な普及、夏の記録的な猛暑など対応に苦慮する気を許せない状況が続いています。

また、年明け早々の能登半島地震、旅客機と海上保安庁の航空機の衝突などインパクトの大きな出来事もあり、それらは様々な形で私たちの日常生活に影響を与えています。

こうした中であって当法人では念願の新施設を建築、新しい施設での活動を滑り出すことができました。日頃より一つ一つの課題を役職員間で話し合い、前向きに取り組むことで成果を生みだし、通所者の増加へとつなげていることを好ましく感じています。

これまでの活動場所だった旧砂川市自立支援センターの解体工事も終わり、通りからくるみ会の建物の全容が見えるようになりました。地域の方々から「新施設ができたね！」と温かく声をかけていただく機会も増え、期待を寄せていただいていることが実感できます。

今後はこの施設を使ったイベントなども計画しています。くるみ会の理念である「笑顔の創出」を体現し、地域の皆様に愛される法人に成長していきたいと願っています。

理事長 茅野輝美

II. 法人本部

1. 評議員会・理事会の開催

評議員会	令和5年6月22日	定時評議員会	くるみ会1階多目的室
			令和4年度事業報告及び決算承認の件ほか
	令和5年12月22日	決議の省略による書面開催	
			定款の一部変更の件ほか
理事会	令和5年4月21日	くるみ会2階会議室	
			グループホームどんぐり整備事業に係る入札結果について
	令和5年5月25日	くるみ会2階会議室	
			令和4年度事業報告並びに決算の承認の件ほか
	令和5年6月20日	くるみ会1階多目的室	
			理事長選任の件ほか
	令和5年8月8日	くるみ会2階会議室	
			障害者自立支援施設くるみ施設長任命の件ほか
	令和5年11月2日	くるみ会2階会議室	
			令和5年度上半期事業報告及び中間決算承認の件ほか
	令和5年12月20日	決議の省略による書面開催	
			「定款の一部変更について」を議案として評議員会に提案する件
	令和6年1月26日	くるみ会2階会議室	
			令和5年度第3四半期事業報告及び決算承認の件ほか
	令和6年3月27日	くるみ会2階会議室	
			令和6年度事業計画（案）及び事業予算（案）承認の件ほか

2. 監事による監査

令和5年5月24日	令和4年度決算監査	理事長室
令和5年7月25日	令和5年度第一四半期定期監査	理事長室
令和5年10月26日	令和5年度上半期定期監査	理事長室
令和5年1月19日	令和5年度第三四半期定期監査	理事長室

3. 評議員選任・解任委員会

令和5年6月19日	理事長室
	任期満了における次期評議員の選任の件

4. 職員・役員研修の充実について

サービスの質の向上並びに日常業務の専門性の向上の為、積極的に研修に参加した。

日付	研修名	場所	参加者
4月6日	北海道サービス管理責任者更新研修	オンライン 研修	片山豊和
4月24~25日	北海道相談支援従事者研修（サビ管向け）	オンライン 研修	鈴木拓 杉森直耶
4月25日	新型コロナウイルス感染症5類移行にかかる施設等説明会及び感染症研修会	オンライン 研修	岡本澄子
7月10日	社会福祉法人監査研修	オンライン 研修	茅野和恵
11月8日	令和5年度障がい福祉サービス事業者集団指導及び感染症予防研修会	オンライン 研修	岡本澄子
12月19日	令和5年度社会福祉法人会計実務者決算・財務分析講座	オンライン 研修	茅野和恵 三浦泰隆
2月10日	令和5年度北海道障害者虐待委防止・権利擁護研修	オンライン 研修	くるみ職員全員

Ⅲ. 障害者自立支援施設くるみ

1. 事業内容

多機能型訓練施設

- ・生活訓練（定員 6 名）
- ・就労移行支援（定員 6 名）
- ・就労継続支援 B 型（定員 28 名）

2. 職 員

管理者	常勤 1 名（専従）
サービス管理責任者	常勤 1 名（専従）
就労支援員	常勤 1 名（専従）
生活支援員	常勤 3 名（専従）
目標工賃達成指導員	常勤 1 名（専従）
職業指導員	常勤 1 名（専従）
職業指導員	非常勤 9 名（専従）
給食調理員	非常勤 1 名（専従）
送迎職員	非常勤 2 名（専従）

3. 一日の流れ（月～金）

8：45	ラジオ体操
9：00	朝のミーティング（朝の体調確認、作業配置確認、連絡事項等） 作 業（途中休憩あり）
11：50	片付け
12：00	昼 食
13：00	作 業（途中休憩あり）
14：40	片付け・掃除
15：00	送 迎

4. 利用者の送迎

エリア：砂川市内・滝川市・歌志内市・上砂川町・奈井江町・新十津川町
体 制：非常勤職員 2 名と他職員により対応

5. スタッフミーティング

業務運営会議	週 1 回
支援会議	週 1 回
パン販売会議・カフェ会議	随時

6. 行事

日付	行事名	場所	参加者数（利用者）
5/12	春のウォーキング	上砂川パンケの湯周辺	6名（5名）
5/28	お花見	くるみ駐車場	24名（17名）
8/12	砂川市盆踊り大会	アイアイ駐車場（市民駐車場）	8名（4名）
10/29	希望まつり	雨竜町公民館	12名（10名）
12/25	クリスマス会	くるみ多目的室	37名（32名）
2/18～19	一泊研修旅行	芦別スターライト	32名（19名）

7. 令和5年度実績

（1）事業効果・評価

- ・令和2年1月より導入した努力手当の継続により、利用者のモチベーションが上がり、通所率のアップに繋がっている。
- ・余暇活動として太鼓サークルを結成。月1回練習を行い、希望まつりで披露し皆に感動を与えた。
- ・就労支援事業売上が、全ての部門で前年より上回ることができた。
- ・カフェくるみでは商品の価格改定を行い、新メニューも追加したことで売上向上に繋がった。
- ・カフェポレポレは10月に新施設で新装オープン。近隣住民ほか新たな客層が広がり来客数が増えた。
- ・愛知県で開催されたアビリンピック全国大会に2名出場し同行支援を行った。
- ・一般就労への移行実績はくるみ全体で1名だった。

（2）課題

- ・利用者の障がい種別が多様化していることから、障がい特性の知識や対応力の修得が必要。
- ・能力や特性に応じた多様な作業が必要。
- ・利用者工賃向上のために収益性の高い事業の開発が必要。

○自立訓練（生活訓練）

1. 事業目的

利用者が充実した社会生活を営めるようニーズを把握し必要な支援訓練を行う。

障がいの特性や適性に配慮した生産活動を実施することで、利用者の社会参加を高める。

2. 令和5年度実績

（1）利用者数（前年度比）

- ・実人数：11名（-2名）
- ・延人数：1,468名（+229名）
- ・1日平均利用者数：5.99名（+0.89名）

(2) 利用者の状況

- ・男女比率は前年とほぼ同じ男性 68%：女性 32%
- ・年代は 40 代以上が 60%を占めるなど健康管理の配慮が必要な年齢層が多い。
- ・地域別では、奈井江町と上砂川町の利用者が増加した。

(3) 事業効果・評価

- ・前年度から実施している個別支援実施計画策定の継続で利用者の支援をより一層充実させた。
- ・適性に合わせた作業参加で利用者の就労意欲が芽生えた。
- ・長期間通所が出来ていない利用者に電話による安否確認や体調確認、通所の促しを行い、通所率の向上と利用者満足度の向上に繋げた。

○就労移行支援

1. 事業目的

施設内での生産活動や施設外就労、企業での実習を通して就労に必要な知識・能力を養い、一般企業への就労に繋げる。またその企業で定着していくことを目的に訓練指導を行う。公共職業安定所での求職登録など、就職活動の支援を行う。

2. 令和 5 年度実績

(1) 利用者数（前年度比）

- ・実人数：3 名（－5 名）
- ・延人数：516 名（－745 名）
- ・1 日平均利用者数：2.11 名（－3.09 名）

(2) 利用者の状況

- ・男女比率は、男性が多い。
- ・年代別では、40 代の利用者が増加した。
- ・地域別では、上砂川町の利用者が増加した。

(3) 一般就労実績

- ・4 月に介護施設への就労 1 人のみ。

(4) 事業効果・評価

- ・アセスメントや面談を通し、利用者の職業適性や就労スキルの醸成など現状と課題の把握ができた。
- ・養護学校卒業後の進路の一つで「くるみの就労移行支援を利用する」パターンが出来つつある。

(5) 課 題

- ・利用者が減少し、年間を通し定員の約 3 分の 1 にとどまった。
- ・利用者の適性に合った障がい者雇用枠が少ない。
- ・実習先の開拓が難しい。

○就労継続支援B型

1. 事業目的

一般企業などへの雇用が困難な利用者に対し、就労や生産活動の機会を提供し、日々の活動を通して社会の一員として充実した日常生活を営むことが出来るよう、自立に向けた支援を行う。

2. 作業内容

パン・菓子の製造、出張販売・イベント販売、喫茶店の接客・調理・コーヒー落とし、カレー等の仕込み・パック詰め、他企業からの依頼作業、仕入販売、コーヒー豆のピッキング・販売。

3. 令和5年度実績

(1) 利用者数（前年度比）

- ・実人数：47名（+9名）
- ・延人数：7,278名（+668名）
- ・1日平均利用者数：29.71名（+2.41名）

(2) 利用者の状況

- ・男女比率はほぼ半々。
- ・10代から70代と年齢層が幅広い中において、50代以上が40%を占める。健康管理や作業内容の配慮が必要である。
- ・障がい種別はこれまで同様精神障がいが多いが、知的障がいの利用者が増加している。

(3) 事業効果・評価

- ・利用者数の実人数と延人数ともに大きく増加させることができた。
- ・作業を通し、協調性や思いやりの心を持てるよう対人関係の作り方を学ぶことができています。
- ・浦臼町の小中学校給食パンやキッチンカー（ダイナー）のパンの受注を受け、定期提供に対応することができた。
- ・菓子事業で、ショートケーキ、クリスマスケーキ、ひな祭りケーキの販売を行い、売上の向上に繋げることができた。
- ・カフェくるみで個別依頼によるコース料理に対応し、客層の広がりとともに予約数が増加した。

・就労支援事業売上実績（前年度）

パン売上	：	24,238,265円	（20,629,425円）
カフェ売上	：	10,792,890円	（9,520,609円）
依頼作業売上	：	2,739,847円	（2,276,159円）

(4) 課題

- ・病気や年齢による対応能力の低下により、作業についていくことができない利用者が増えている。
- ・多様化する障がい特性への理解と、一人一人に合った作業配置のマッチング。
- ・利用者の工賃向上に繋がる収益性の高い事業の開発。
- ・依頼作業が増えたことによる作業人数の確保。

○就労定着支援（ワークケアくるみ）

1. 事業目的

一般就労へ移行した障がい者について、就労に伴う生活面の課題を改善するために、企業や自宅等への訪問、本人による来所等により必要な連絡調整や指導・助言等を行い、就労の継続のための支援を行う。

2. 令和5年度実績

(1) 利用者数（前年度比）

- ・実人数：4名（±0名）
- ・延人数：34名（-4名）
- ・1ヶ月の平均利用者数：4名（±0名）

(2) 利用者の状況

- ・年代は30代が多い。
- ・障がい別では精神障がいが多い。
- ・安定して勤務できている人が多い。

(3) 事業効果・評価

- ・生活面や就労先での課題の確認や改善方法などの相談対応ができています。
- ・利用者と一緒に働いている職員の方とも常に連携がとれた。
- ・利用者が退職後引き続き再就職させることができ、継続して定着支援サービスの利用につなげることができた。
- ・就労移行支援から一般就労した利用者2名を定着支援へとつなげることが出来た。
- ・月に1回以上企業訪問を行い、事業主から本人の作業状況の確認を行うことができた。
- ・定着率が高く、前年度から引き続き継続してサービスを利用している。
- ・利用者1名が3年間の利用期間を終え、安定して定着し働いている。

(4) 課題

- ・当施設以外の支援で一般就労した障がい者の定着支援サービスの取り込みが皆無。
- ・地域や企業へのサービス内容の周知。

IV. 地域活動支援センターぽぽろ

1. 事業内容

地域活動支援センター（市町委託4市5町）

精神障がい者地域生活支援事業（中空知圏域・北海道委託）

相談支援事業

- ・市町村相談支援事業（市町委託4市5町）
- ・指定特定相談支援事業
- ・指定一般相談支援事業

地域生活支援拠点事業（市町委託3市4町）

2. 職員

施設長（センター長） 常勤1名（専従）

相談支援従事者 常勤2名（専従）

看護師 非常勤3名（兼務）

○地域活動支援センター事業（I型）（4市5町委託）

1. 事業目的

病気や障がいを抱えながら地域で生活している人に日中活動の場を提供する。また、地域住民等に障がいの理解を深める普及啓発活動を行なう。

2. 事業実績

（1）利用者数

実人数：74名、延人数：3,171名、開所日数：242日、一日平均利用者数：14名

（2）各市町の利用者状況（実人数）

市 町	人数	%	市 町	人数	%
砂川市	42	56.8	滝川市	13	17.6
上砂川町	3	4.1	歌志内市	3	4.1
奈井江町	4	5.4	赤平市	5	6.8
浦臼町	1	1.4	新十津川町	3	4.1

（3）今年度の特徴

- ① 運動の機会や気分転換を目的に「歩こう会」を4月から10月まで実施した。
また、「くるみ会見学」を実施した際、作業に興味を持ち、「くるみ会」の生活訓練に繋がった利用者がいた。
- ② 社会資源の活用として、まちなか集客施設「SuBACo」にて電動自転車をレンタルし、自転

車を持っていない利用者もサイクリングに参加することができた。

- ③ 障がい別では、近年知的障がいが増加傾向であり、サテライトの利用目的や参加されるプログラムにも変化が見られている。

(4) 事業内容・評価

社会参加や日常生活の向上を目的に、以下の事業を実施した。

目的	実施内容	評価
コミュニケーション能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング ・語ろう会 ・サテライトミーティング 	自分のことを語る、意見を伝える、他者の話を聴くことを通して、コミュニケーション能力が向上した。
社会性と自主性を養う	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事・創作活動 ・ランチタイム・サークル活動 	プログラムの企画運営やサークル活動を通して、自主性を高めたり、仲間づくりにつながった。
自分の病気や障がいの認識を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者研究 ・疾病別当事者交流会 (統合失調症、うつ・双極性障がい) 	病気や障がいについて安心して話せる場となっており、利用者同士のコミュニケーションを通して、安心感をもつことができ、自分の病気や障がいについて認識を深めることができた。
健康を増進する	<ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ・歩こう会 ・サイクリング・軽スポーツ ・ラジオ体操 ・料理教室・健康講座 	日課のラジオ体操やウォーキングの機会に加え、サイクリングを行うことでさらに、体力向上に繋がり、健康への意識作りができた。
障がい理解の普及啓発をすすめる	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町、精神科病院等にポスターの掲示を依頼 ・広報誌の作成 	公共施設にプログラムの掲示を依頼することで、地域活動支援センターの存在を地域住民に周知することができた。

3. 課題

- (1) 年代や障がいの多様化に伴い、利用者の参加目的に応じたプログラムや居場所づくりが必要である。
- (2) 近年、バスの減便や廃止などがあり、当センターに来所しにくい状況が増えている。今後も交通の便の悪化が考えられる。
- (3) 引きこもり等の方にも情報が届くよう周知方法について新たな検討が必要である。

○精神障がい者地域生活支援事業（中空知圏域）

1. 事業目的

- (1) 精神障がい者が暮らしやすい地域づくりの推進。
- (2) 精神障がい者が安心、安全に暮らせる支援ネットワーク体制の構築。

(3) 長期入院者の地域移行・地域定着を支援。

(4) ピアサポーターの育成。

2. 事業実績（令和5年4月～令和6年1月）

(1) 精神障がい者地域生活移行支援協議会の開催（2回開催）

月 日	内 容	参加人数
9月4日	① 講演「あらためて地域移行とは？」 ② ②グループ討議「地域移行を進めるための課題、それぞれの立場から」	43名
11月30日	① 講演「道内のピアサポーター活動について」 ② ピアサポーター紹介動画鑑賞 ③ グループ討議「今後のピアサポート活動のヒント、それぞれの立場から」	38名

(2) 地域移行検討委員会

月 日	内 容	参加人数
5月23日	前年度の振り返りと今年度の地域生活移行支援協議会の内容について検討	9名

(3) 地域移行・定着支援の実施

- ・地域移行支援1件、利用者の求めに応じてピアサポーターによる訪問を実施した。

(4) ピアサポーターの育成

① 7名雇用

② 内容

- ・定例ピア研修（月2回）を実施し、支援や活動の振り返り、企画などを行なった。
- ・全道ピア研修や全道ピア会議（オンライン）で他圏域との交流や情報交換を実施した。
- ・令和5年11月より、砂川市立病院ショートケアで交流会を実施した。
- ・「ぴあサポ通信」を発行した。

(5) 精神科医療機関・関係機関との連携

- ① 7月に各医療機関・関係機関を訪問しピアサポーター活動のPRや周知を行った。
- ② 退院支援のカンファレンス等には可能な限り参加した。
- ③ センター長会議（オンライン）に参加し、各圏域の担当者と近況報告や情報共有することができた。

(6) 今年度の特徴

- ① 地域移行支援については、医療機関内への立ち入りや面会制限が続いているため、本格的な再開はできていない。
- ② ピアサポーターを7名雇用したが、体調の悪化や就職などにより、安定して活動に関われるものは3名ほどに留まった。

3. 課題

- (1) 病棟への出入りや入院患者との接触に制限があり、退院に関わる支援は行えなかった。
- (2) 職員の不足により、事業の維持が難しくなっている。

○市町村相談支援事業（4市4町委託）

1. 事業目的

中空知圏域在住の障がい者（身体、知的、精神、難病、発達障がい等）及び家族などからの相談に応じ、課題解決を目指す。

2. 事業実績

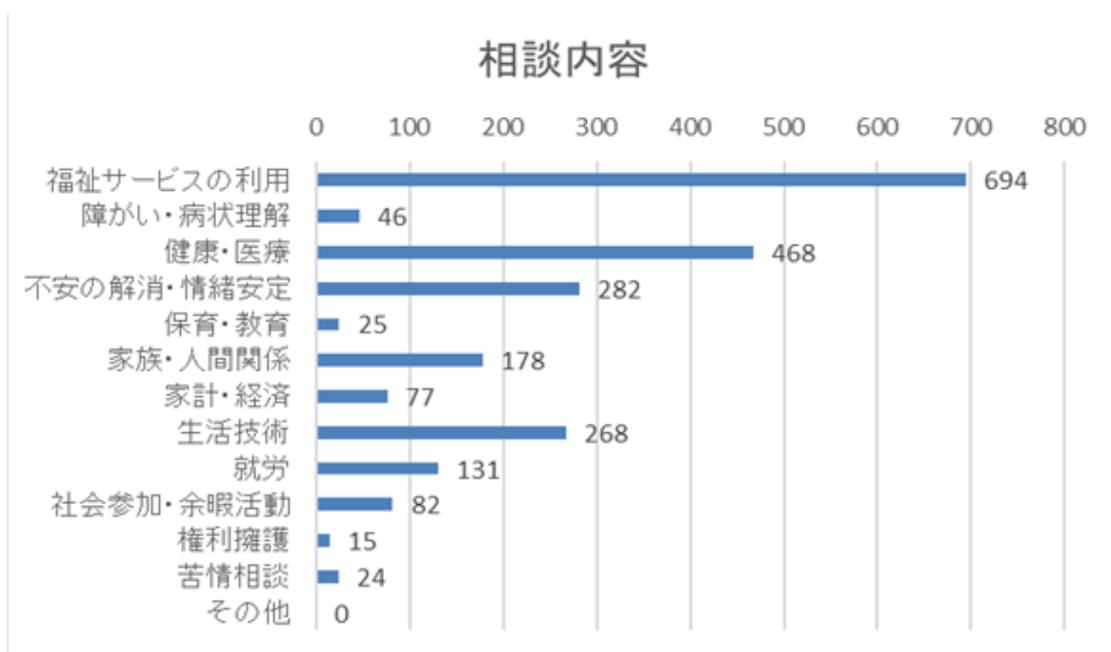
(1) 相談状況

延件数 1,839 件（うち、時間外対応 21 件）、実人数 200 人

(2) 利用者の状況（市町別実人数）

市 町	人数	%	市 町	人数	%
砂川市	111	55.6	滝川市	13	6.5
上砂川町	25	12.8	歌志内市	10	4.9
奈井江町	10	4.8	赤平市	22	10.8
浦臼町	8	4.2	雨竜町	1	0.4

(3) 相談内容



(4) 今年度の特徴

- ① 一人暮らしを始める、グループホームに入居するなど住環境が変わる利用者が複数名おり、窓口での手続きや関係機関への同行、連絡調整等が多くあった。
- ② 内科系疾患の持病を持つ利用者や、新たな疾患発症、病状の悪化に対する支援が増加している。病状の不安定や医師からの説明が理解できないなど、受診同行や医療機関各診療科との連絡調整が増加した。

3. 課題

- (1) 家族や知人を通じて相談につながることもあり、地域住民に対する当センターの認知度をさらに高めていくため、広く住民に周知をしていく必要がある。
- (2) 相談が少ない地域に向け、周知方法を検討していく。
- (3) 相談員の不足により、十分な相談支援を提供できない可能性がある。

○指定一般相談支援事業

1. 事業目的

施設入所や入院中で地域移行が可能な障がい者について、入院・入所中から継続して支援を行い本人の希望する在宅生活を推進する。

2. 事業実績

(1) 実施状況 地域定着 2件

利用者	年代・性別 疾患名	支援 期間	現在の状況
Aさん	60代・女性 双極性障害	地域定着 37か月間	令和2年6月退院。居宅介護支援等を利用しながら自宅で一人暮らしをしている。退院後から地域定着支援を利用していたが、令和5年8月からの生活訓練利用を機に終了となっている。
Bさん	20代・女性 うつ病	地域定着 24か月間	令和4年3月に退院。居宅介護支援を利用しながら自宅で一人暮らしをしている。

(2) 事業効果

令和5年12月より、砂川市立病院に入院中の方の地域移行支援を開始した。

長期にひきこもり状態にあった方で、コミュニケーションスキル向上を目指して、ピアサポーターによる訪問を重点的に行なった。

3. 課題

- (1) 昨年12月より開始した地域移行支援では、病院スタッフからピアサポーターの支持的な姿勢

が期待されていた。ピアサポーターとして効果的なサポートができるよう、対人援助スキルを学習していく必要がある。

- (2) 地域移行支援・地域定着支援の利用を促すため、関係機関や対象者へ、事業内容の十分な周知が必要。

○指定特定相談支援事業

1. 事業目的

障がい福祉サービスを利用している人の包括的な支援計画を作成する。作成した支援計画が利用者の状況に合っているか定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて支援計画の見直しを行う。

2. 事業実績

(1) 実施件数

実人数 457 人、計画作成延 272 件、モニタリング延 683 件

(2) 今年度の特徴

- ① 新規利用希望者など、需要の増加が見られた。
- ② 地域生活支援拠点事業などで対応した困難事例をサービスに接続するケースが増えてきた。
- ③ 相談支援従事者の不足により、事業の維持が難しくなってきた。

3. 課題

- (1) グループホーム入居やヘルパー利用を希望する人について、事業所の人員不足や支援体制の都合により本人が希望する事業所が利用できないなど、本人の特性やニーズに応じたマッチングができずサービス利用が難航するケースがある。
- (2) 他の事業所においても新規相談の受け入れが困難な状況が発生してきており、新たに計画相談を希望する利用者が相談支援事業所を選択できない可能性もある。
- (3) 相談支援従事者の不足により、事業の維持が難しくなっている。

○地域生活支援拠点事業（3市4町委託）

1. 事業目的

地域で生活する障がい者の緊急時の対応や、親亡き後の生活や障がいの重度化・高齢化を見据え、地域全体で障がい者の地域生活を支える支援体制の構築を目指す。

2. 事業実績

(1) 実施件数

相談件数：延 555 件（うち、時間外対応 3 件）

実人数 44名（砂川市 28名、赤平市 3名、歌志内市 1名、奈井江町 2名、上砂川町 10名）



（2）今年度の特徴

- ① 通院介助等、本来は居宅介護の利用が望ましい場合も、居宅介護事業所の人手不足により必要なサービスを受けることができず、病気の治療や日常生活に支障が出ないよう当センターで対応してきた。
- ② 対象者本人やその家族の急病に際して必要な医療を接続し、病院と連携しながら退院までの支援を行ってきた。
- ③ 家族それぞれに支援が必要な複雑な事例では、市役所や地域包括支援センターなど多機関との連携を取りながら対応を行ってきた。今後も他分野、多機関との連携が重要になっていくことが予想される。
- ④ 対象者の障がい特性による行動が社会上に問題となり警察が介入する状況が発生。警察や行政と連携しながら支援を行っている。

3. 課 題

当事業の活動が一定の成果を上げ、行政機関による困難事例の掘り起こしも積極的になるなか、対応する人材の不足が深刻化してきている。

○その他の事業及び主な取り組み

（1）地域自立支援協議会への参画

依頼市町：砂川市、赤平市、奈井江町、浦臼町

（2）障がい支援区分認定調査

実施件数 4件

依頼市町 赤平市、札幌白石区、札幌厚別区

(3) 普及啓発事業

- 広報誌かわら版の発行（年1回）
- パンフレットの配布
- ポスター作成
- インターネットホームページの活用を通して普及啓発を行った。

課 題

- (1) 当センターのポスターやパンフレットを、行政や医療機関など関係機関のみならず、幅広く掲示を依頼し、地域住民に広く周知していく必要がある。
- (2) 広報誌を活用し、当事者の声を幅広く届け、障がいの普及啓発をすすめていく。

V. 外部サービス利用型共同生活援助

1. 事業目的

住居を提供し、自立に向けた援助・支援を行うことで、障害者の地域生活を推進する。

2. 施設	どんぐり	(砂川市西4条北4丁目 1-19)	定員6名
	かえりゃんせ	(砂川市吉野1条南8丁目 1-2)	定員6名
	かえりゃんせⅡ	(砂川市吉野1条南8丁目 1-3)	定員6名

3. 職員	管理者(施設長)	常勤1名 (兼務)
	サービス管理責任者	常勤1名 (専従)
	看護師	非常勤1名 (専従)
	世話人(6:1)	非常勤6名 (専従)
	※利用者6名に対して常勤換算で世話人1名を配置	

4. 活動
- 世話人による食事の提供と生活上の支援。
 サービス管理責任者等による相談対応。
 共有スペースの清掃やゴミ出しなど簡単な家事を分担することで、利用者の生活技能の向上を促す。
 週1回のミーティングで利用者の状況確認と看護師による健康チェック。
 全職員による個別支援検討会議の開催。

5. 令和5年度実績

社会福祉施設整備国庫補助金を活用し、老朽化していたグループホームどんぐりの建て替えを実施。旧施設の隣に完成した新施設は2階建延べ面積173.073㎡。
 1階にも居室を設け、身体機能の低下により階段の利用が困難な利用者が入居している。
 旧施設はすでに解体し、次年度以降駐車場として整備する予定。

(1) 利用者数

- ・実人数： 19名 (前年度比較-1名)
- ・延人数： 5,621名 (前年度比較-345名)
- ・1日の平均利用者数： 15.3名 (前年度比較-1名)

(2) 利用者の状況

- ・性別では、女性は3割強で圧倒的に男性が多い。
- ・年代は、50代以上が7割強で、高齢化傾向。
- ・障がい別では、統合失調症が大半で、他知的障害、うつ、てんかんなど。

(3) 事業評価

- ・グループホームどんぐりは、新しくなったことで入居申し込みがあり、満室になった。

- 一方、別のグループホームでは共同生活に対応できずに退去につながる事案が2件あった。
- 新築のどんぐり以外の他の2施設はエアコンの設備がなく、昨今の夏の暑さ対策が必要。

(4) 課 題

- 光熱水費の高騰により、利用者から徴収している管理諸費用では賄いきれなくなっており、管理費の値上げを検討。
- 現在もかえりゃんせⅡで空き室があり、入居者確保への努力が必要。
- 利用者に過食の傾向が見られ、生活習慣病のリスク軽減にむけた注意喚起が必要。
- 高齢化により身体機能が低下している利用者が増加していることから、生活状況の見守りが必要。